



ホームページは

新しい年を迎えて

桂坂学区自治連合会 会長 谷口 隆夫

皆様、明けましておめでとうございます。令和2年の新年を心新たに、楽しくお迎えのこととお慶び申し上げます。日々の地域貢献への活動、大変お世話になりありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

桂坂学区が誕生して32年目に入り、世帯戸数は3,866世帯に達しています。まち並みは美しく整備され、自然豊か

で心地よい住環境の桂坂へと発展を遂げてまいりました。私たちはそんな素敵なまちで暮らしています。私たちの願いは、この桂坂が将来にわたって生き生きと暮らせる「まち」であり続けることです。



桂坂がコミュニティー含めて魅力あるまちとなりえたのは、桂坂を単なる「まち並み」から、よりよき「まち」にしようとの思いから、そこに住む人々同士のコミュニケーションが高まり、自治会活動が始まったからと言っても過言ではありません。人と人とのより良き結びつきこそ桂坂の誇るべきところです。そして、その地域貢献への活動は各種団体、自治連合会へと発展を遂げ、地域内の教育施設、福祉施設等との連携・協力を図りながら様々な活動が展開されてまいりました。そして、その活動の成果は桂坂伝統の各種の祭り、地域福祉、相互扶助等々、様々な行事となつて、春夏秋冬の季節の流れの中で地域コミュニティーを潤しています。これらは、桂坂の各自治会をはじめとする地域の人々が32年をかけて苦楽を共にしながら汗水を流して築き上げてきた賜ものです。我が学区にある16自治会の地域貢献活動は、地域コミュニティーを支える屋台骨であり、その活動状況は桂坂コミュニ

ティー発展のバロメーターです。その意味から自治会活動は大切に継続していかなければなりません。少子高齢化や働き方改革などの影響から、自治会の担い手不足が懸念されています。さらに現在、桂坂のこれまでの発展を担った世代から、次の新しい世代へのバトンタッチの時期を迎えていると思います。これらの課題は、桂坂をよりよく持続発展させるためには是非とも乗り越えなければならない事柄です。

32年をかけてつくりあげてきた桂坂のコミュニティーも、これらの諸課題の対応に手をこまめいて時期を失すれば、あっという間に手遅れになりかねません。現在の桂坂を生きる私たちには、次世代のために、より良い桂坂のコミュニティーを継続可能なかたちにして、引継ぎを行う役割を担っていると思います。

これらのことを踏まえ、自治会活動を維持・継続する重要性の啓蒙と共に、自治会活動の質と量をどのように調整するのか等といった持続可能な運用方法についても検討が必要であると考えています。これらの課題を含め、各自治会の状況は様々で、解決のための特効薬はありませんが、皆で知恵を出し合って進むことが必要です。

現在、自治連合会では、その解決の糸口を見つけるために、独自の改革案の模索と共に、他学区の自治会・自治連合会の運営方法や行事内容等についてヒアリングを始めたところです。早速、1月初旬に他学区の連合会長から、お話をうかがいましたが、会合の回数、日程、助成金、さらに活動に取り組む姿勢等々、参考になる所も多々ありました。当学区の運営に取り入れる場合は十分に検討し、定例会等でお伝えし皆さんにはかりたいと考えています。

さらに、昨年12月より、財政問題検討委員会を再開しました。桂坂学区自治連合会は各種団体(内9団体)にそれぞれの活動を応援する目的で助成金を出しています。その助成する金額が、各団体から提出された、事業計画・予算書、ならびに事業報告・決算報告の内容と整合性がとれているかどうかを、双方で確認しあい、適切な助成金の支給を図ろうとするものです。

そのほか、桂坂センター地区の公共用地の活用を考えて行かねばなりません。今年も、これらの諸課題に、皆さんと力を合わせながら、より良い桂坂を目指して取り組んでまいろうではありませんか。

「民生委員・児童委員」会長就任ご挨拶 桂坂民生児童委員協議会 会長下川 智恵子

新しい年を迎え、皆様におかれましては、お健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

この度、昨年11月末の民生委員・児童委員の改選期にあたり、前会長の鈴木晃司が任期満了にて退任され、私、下川智恵子が12月1日より会長職を引き継ぐことに成りましたので、前会長同様ご支援ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

民生委員・児童委員は、地域にお住まいの皆様の「医療、介護、子育て支援」等あらゆる生活上のご相談に応じ支援をさせて頂いております。今後も時には、「行政や専門機関」と連携し、その問題解決が出来るよう誠心誠意、支援に努めてまいります。

私たち、民生委員・児童委員は、法に定められた守秘義務を負っており、相談内容を他人に漏らす事は一切ありませんので、ご心配なくお気軽に、お近くの民生委員・児童委員までお声がけ頂きます様、ご案内申し上げます。

最後に、桂坂の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

桂坂消防出張所売却問題について 京都市長選挙候補者に対する 公開質問状・回答書を自治連HPに掲載

本年2月に行われる京都市長選挙の立候補予定者として、昨年12月に公開質問状を3候補に送ったところ、回答が得られました。公開質問状・回答書は、桂坂学区自治連合会ホームページのTOPページに掲載しています。

<https://kyotokeikan.org/katsurazaka>

京都市長選挙立候補予定者

●●●●殿

桂坂学区自治連合会

会長 谷口隆夫

同消防出張所予定地売却問題対策委員会

委員長 蓑島潔

公開質問状

平成30年7月、桂坂学区自治連合会定例役員会に京都市消防局西京消防署幹部が出席し、桂坂センターC地区内の消防出張所予定地(西京区御陵大枝山町四丁目32番4、「桂坂中央」バスターミナルの南にある宅地、約210坪)を売却する意向が一方的に表明されました。当該土地は、住民の生命安全確保の基礎となる消防出張所という公共性の最上位にあるものとして、京都市の開発指導により、開発事業者より京都市に無償提供されたものであり、そのコストは分譲代金に含まれ、実質的に地域住民の負担により提供されたものです。

売却は、桂坂住民としては、到底、受け入れられるものでなく、同年8月には、桂坂学区自治連合会 消防出張所予定地売却問題対策委員会を立ち上げ、以来、この問題に精力的に取り組んでまいりました。「桂坂消防出張所用地売却方針撤回及び関連まちづくり事項の申入書」の京都市長への提出、桂坂住民意見交換会、京都市レジリエンス戦略講演会、西京区選出京都市会議員懇談会等を行ったところ、申入書そのものへの正式な回答はいただいておりませんが、本年7月、西京消防署は、京都市消防局の意向として、口頭にて「当該地の売却

に関して、今後、3年なのか5年なのか分からないが、常識的な期間で、当該土地の活用法について地元で協議、検討している間は、売却に関して保留を継続する。『売却方針撤回』という表現はできないが、売却されないという前提で、当該土地の活用法を考えていただきたい。」との表明をなされました。

消防出張所予定地売却問題対策委員会は、これまで、23回の会議を開催し、現在は、「～桂坂センター地区の公共用地(現在未利用の空き地)の活用をみんなで考えよう!～ プロジェクト(仮称)スタートアップミーティング(始まりの会)」や「桂坂センター地区の未利用地をどうにかすか」アンケートを実施し、地域コミュニティー活性化など、有効活用策を検討しているところです。

この問題について、京都市長選挙立候補予定者である貴殿のご意見を回答していただきますようお願いいたします。お忙しいところ恐縮ですが、文字上限400字で、令和2年1月15日までに、メール、FAX、郵送のいずれかで、下記連絡先宛てにご送付ください。尚、その回答は、住民向けに広報させていただく予定です。

西総合支援学校 図書贈呈式

昨年、10月25日(金)西総合支援学校の芝生まつりオープニングにて桂坂教育後援会より寄贈された図書の贈呈式が行われました。桂坂教育後援会谷口会長より、目録を贈呈し感謝状をいただきました。



大型の絵本や本はカラフルで写真やしかけのあるものも多く、子どもたちは、楽しみながら本に親しんでくれているそうです。

